

---

# パパ聞き！～オリ主は小学生！？～

?紫苑?

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

パパ聞き！〜オリ主は小学生！？〜

### 【Nコード】

N4859W

### 【作者名】

？紫苑？

### 【あらすじ】

パパの言うことを聞きなさいの二次創作小説が少なかったので書いてみました。  
会話文がかなり多いです

## 人物紹介（前書き）

初めましてはるです

## 人物紹介

長谷川 悠（ハセガワ ユウ）

身長163？

体重41？

小学5年生

容姿

誰から見てもイケメン

けど自覚なし

金髪 赤目

短髪

性格

大人びている

誰にでも優しく好かれている

本を読むのが好き

運動神経抜群で成績優秀

完璧超人

備考

炊事 洗濯何でもできる

喧嘩は強いけど自分からはしない

ブラコン気味

長谷川 真（ハセガワ マコト）

身長152？

体重 48 ?

中学 2 年生

容姿

悠が上の上だとすると

真は上の中

黒髪 青い目

前髪で目が隠れている

性格

おとなしく

あまりしゃべらない

しゃべるときは「・・・」を最初につける

兄弟をバカにされるとキレる

喧嘩は強いけどめったにしない

備考

料理の腕は皆無

塩酸を入れようとするが

悪気はない

悠を手伝いたいと思っているが

邪魔をしてしまってることを

申し訳ないと思ってる

長谷川 友（ハセガワ トモ）

身長 97 ?

体重 16 ?

3歳 保育園児

容姿

かわいい

男の娘みたいな

性格

おにーちゃん大好き

特に悠が大好き

明るく元気

悠のことは「おにーちゃん」

真のことは「まこと」と呼ぶ

タカナシ  
小鳥遊  
ミウ  
美羽

身長136?

体重28?

小学5年生

容姿

アイドル張りの美貌を誇る美少女

金髪で黒目

ツインテール?

上の上

性格

大人びていて

女子力の高い小悪魔系

かわいいけれど

その性格のよさで憎まれない

頭もいいし

運動もできる

備考

悠と同じクラスで

悠の隣の家に住んでる

親は飛行機の事故で行方不明

大学生の叔父さんに引き取ってもらった

スギハラ  
杉原 サチコ  
祥子

身長143?

体重33?

小学5年生

容姿

体育会系

ボーイッシュ

中の上

性格

おおざっぱ

備考

美羽の親友

あだ名は「サッチン」

悠と同じクラス

悠は「サッチャン」と呼んでる



## 人物紹介（後書き）

続きは早めに書いておきます

## 1話目　　↓登校↓

「やべえ　転校初日なのに遅刻するとか不良とおもわれちゃうよ」

↓

「やつば　チャイム鳴っちゃったよ遅刻じゃん

そう俺は今日、神山小学校に転校してきた。

けど、俺は今遅刻してしまったのだ

「あつ！　あそこかな学校？　近くに人がいるからきいてみよう」

「あのー　すいません」

「はいっ　何ですか？（ノノノなんかこの人　かつこいいな）」

「ここって神山小学校ですか？（？どうしたんだろう　この人　顔が赤いな）」

「あつ　はっはい　そうです。」

「助かったよ　ありがとう（ハ・ハ・ハ）」

「ッ！　いいえ　どういたしまして（ノノノうわあ　かつこいいなあ）」

「あつ　ヤバッ　遅刻なのに　急がなきゃ」

「あつ　私も急がないと」

あゝ　声かけないほうがよかったかな？

俺のせいで余計遅れちゃったよね　申し訳ないなあ

「あゝ　よかった　やっと学校に着いた。

職員室に早く行かなきゃ　先生になんて言われるか

なあ」

どきどきしながら職員室に向かって歩いた

しばらくすると、職員室らしき場所に着いた。

「ここかな？ まあ いいや 入ってみよう！」

コンコン

「あのー すいません 転校してきた長谷川 悠ですが  
担任の先生はいますか？」

「はい わたしです」

1 話目 〽 登校 〽 (後書き)

中途半端で終わってしまってますいません

転校生は・・・俺？（前書き）

再開！！！！

転校生は・・・俺？

「はーい わたしです」

「すいません。遅くなりました」

「いえ 転校してきたばかりだから迷ったんでしょう？」

それより、みんなを待たせてますのではやく教室に行きましょう」

「はい」

〽教室〽

ワイワイ ガヤガヤ

「ねえ サッチン 先生来るの遅くない？」

「そうだねー 先生のことだから

どっかでこけてんじゃない？」

「ありそうだから困るね・・・」

〽廊下〽

「いったあーい」

「大丈夫ですか？ケガとかしてませんか？」

「だっ大丈夫！ いつものことだから」

「いつもこけてるんですか！？」

「うん」

「はあ まあ早く教室に行きましょう」

「あっそうだった」

ドジな先生のおかげで遅くなったけどまあいいか  
先生ここにいるし  
けどさすがに時間がやばいね

転校生は・・・俺？（後書き）

短いけど・・・

感想よろしくお願いします



イケメン？ 誰が？（前書き）

前回よりは長めに書きたいと思います！

イケメン？ 誰が？

〈教室前廊下〉

「じゃあ 呼んだら入ってきてくださいね」  
「分かりました」

ガラガラ

〈教室〉

「はい。 静かにしてくださいね」  
今日は転校生がきてますよ」

「はい！ 男ですか？ 女ですか？」

「男ですよ」

「イケメンですか？」

「秘密です けど、見ればわかりますよ」  
「え〜！」

〈教室前廊下〉

うわぁ 入りにくいな  
俺、イケメンでもないのに・・・  
期待させちゃったかな？

「入ってきてください」

うわっ どうしよう

どうにでもなれっ！

〈教室〉

「入ってきてください」

「失礼します」

「「キヤー／＼カッコイー／＼」

「「（チッ イケメンが入ってきてやがった）」

「？カッコイーって誰が？」

「自覚ないところもいい！」

サイド 美羽

転校生が来た。

モデルをやってるみたいに背が高くスラッとしていた  
そっそれと かっこいいなあ

私は、隣の席にいるサツチンに声をかけた

「ねえねえ！ 今入ってきた転校生の子かっこよくない？」

「うっうん／＼ かっこいいね」

驚いた！ 恋愛に興味なさそうなサツチンが  
顔を赤らめているなんて 珍しいな

サイド 悠

「はーい！ 静かに」

先生はそういつて教卓をたたいた  
すると、今までのさわぎが嘘のように静まり返った  
でも、静か過ぎると逆に話しにくいんだよね・・・

「では、自己紹介してください。」

「はい。 長谷川 悠です。 これからよろしくお願いします」

まあ 名前だけでいいかな？

へたに変なこといつて悪い印象もたれるのもいやだしね

「じゃあ 聞きたいことがある人は手を挙げて  
質問してください」

「はい はい はい！ 彼女はいますか？」

「？ いまけんけど？」

どうしてこんな事聞くんだろう？

まあ転校生だからだよな・・・

「やったあー」

「（女子にこんなこと聞かれるとはうらやましい てかムカつく）」

何がやったあーなんだろう？

「はいはい！ 好きな異性のタイプは？」

「好きな女性のタイプですか

え」と 基本的にはどんな人でも好きですよ？

いじめたりする人は嫌いですけど・・・」

「よし！！（これは、がんばればチャンスありかも！）」

「もういいですか？ まだ聞きたいことがある人は

後で聞いてください！ 長谷川君もそれでいいですか？」

「別にいいですけど・・・」

そこまで、気になるもんかな？ 普通の転校生に・・・

イケメン？ 誰が？（後書き）

こんぐらいでいいですかね？

感想よろしく願います！

MF4!？・・・って何？(前書き)

お気に入り登録1件！  
うれしいです！

MF4!？・・・って何？

・・・

「じゃあ 長谷川君の席は小鳥遊さんの後ろです。」

「はい。あの、小鳥遊さんはどなたですか？」

「あ。そーでした 小鳥遊さんは窓際の後ろから2番目の方です」  
「そうですか。ありがとうございます」

だとすれば 俺は窓際の一番後ろの席が  
ラッキーだな・・・

「あなたが 小鳥遊さんですか？」

これからよろしくお願いします(ニコッ)

「うつん／＼／＼ よっよろしくね。私のことは美羽でいいよ?」

「分かりました。 美羽さん」

「敬語はなしで、呼び捨てでいいよ。」

「分かったよ。 美羽 (ニコッ)」

「あう／＼／ (かつこいいいよお)」

「どうした? 顔が赤いよ?」

「えっ なっなんでもないよ? (鈍感だね・・・)」

「そうか?」

「うん」

「(くっそおー 俺たちの美羽さんに呼び捨てなんて

うらやましいぞおー 後で呼び出そうかな? MF4を・・・)」

MF4とは・・・



クラブのことである

という美羽のファン

「じゃあ 朝の会は終わりますよー 日直さん どうぞ」

「これで 朝の会を終わります。 礼」

「「「ありがとうございます」」」

「そういえば 長谷川君は転校してきたばかりで

何も分からないと思いますので小鳥遊さん案内をしてあげてください

い」

「はい。」

よかったー 無事に自己紹介を終えることができたあー

(会話文ばかりだね^^)

あれっ? どこからか声が聞こえてきたような

気のせいかな

「美羽 学校を案内してくれる?」

「いいよ。 あっ サッチンも一緒にいい?」

あっサッチンは私の親友だよ?」

「いいよ」

「はい。 私がサッチンこと 杉原 祥子です」

「あなたがサッチンさんですか。 かわいいですね」

「えっ／＼ (かわいって言われた・・・)」

「さっちゃんって呼んでいいですか?」

「うっうん いいよ」

「ありがとうございます」

「敬語じゃなくていいから」

「分かりました じゃなかった、分かった さっちゃん」

「じゃあ 行こうか まずはどこに行きたい？」

うーん どこから案内してもらいましょうかねー

読書好きだから・・・ 図書室からがいいかな？

「図書室がいいですね。 本読むの好きだから・・・」

「そーなんだ？ じゃあ 図書室から行こうか」

・・・

「あつ そういえば 俺のことは、悠でいいからね？」

「わっ分かった。 悠 (／／／何か照れるなあー)」

「ふえっ なつなに！？ (聞いてなかったあ)」

「いやあ 俺のことは悠って呼んでって言ったの」

「うっうん 悠／／／ (うわあ なんか顔が熱くなってきたよー)」

「どうした 美羽？ 風邪？ 顔が赤いよ？」

そういつて 俺は美羽のおでこと自分のおでこを当てて

熱があるかはかった・・・

すると・・・

「(／／／！？ かつ顔が近い！？ (／／／プシュー バタン)」

「えっ！？　美羽！？　だっ大丈夫？　　どうしよう　気絶しちゃった」

「（鈍感もここまでくればすごいわね）」　サッチン

「どっとうしよう？　まずは保健室に連れて行こう」

（・・・意外と冷静だね・・・）

そうやって俺は美羽をお姫様抱っこで保健室に連れて行った。  
途中で男子たちは睨んできたし、女子は肩を落としていたけど  
なんだっただらう？

MF4!？・・・って何？(後書き)

会話文がかなり多いですね ( ^ \_ ^ ; )  
どうでしょうか？

感想などよろしく願います

ほっほっ保健室 (前書き)

^  
^

## ほっほっ保健室

「大丈夫かなあゝ 美羽」

「大丈夫よ。今は寝ているだけだから」

「そうなんですか？」

俺がベットに寝ている美羽が

心配でうるちよろしてたら

保健室の先生が状態を教えてくれた

「そう。（けど、苦勞するわね。小鳥遊さんも杉原さんから聞いたところ、長谷川くんが鈍感だってことがよくわかったわ。）

もうすこしで目が覚めると思うわよ？」

「本当ですか!？」

「うそはつかないわよ」

「うつうゝん？ ここは？」

「気づいた？ よかったゝ」

そいつって俺は美羽を抱きしめた。

「あっあう だっ大丈夫だから はっ離して？」

「あっ ごめんね」

「いついや？ 別にいいけど・・・  
はっ恥ずかしかったただだから！」

「そつそつ？ まあいいや もう放課後だし帰る？」

「あつもうそんな時間？」

「うん、どうする？ 帰るなら送っていくけど？」

「えっいついや？ いいよ 私一人で帰れるし  
妹も連れて帰れなきゃいけないし」

「えっ 美羽 妹いるの？」

「

「うん。おねえちゃんもいるよ？ 3姉妹」

「妹とお姉ちゃん、何歳？」

「えっ妹は3歳でお姉ちゃんは中学2年だよ？」

「すげえゝ 偶然」

「何が？」

「ああ 俺にも弟と兄がいるんだけどな  
弟は3歳で兄は中3なんだ  
もしかすると、もう知り合ってるかもね」

「そうなの？ すごいねゝ」

「ああ そういえば俺も弟迎えに行かなきゃ  
いけないゝし、一緒に行こうぜ？」

「それなら行く場所一緒だしいいよ?」

美羽と一緒に帰ることになったので  
歩き始める

「ありがとな。そういえば美羽の妹何て名前?」

「ひなだけど? 悠の弟は?」

「ああ トモだよ 友達の友って書いて  
トモ」

「へえ かわいい名前だね」

「ああ」

しゃべりながら何十分か歩いていると保育園に着いた



## ほっほっ保健室（後書き）

会話が多かったので行を開けてみましたw

暇つぶしにバカテスト（前書き）

バカテストです

## 暇つぶしにバカテスト

バカテスト      社会

問    次の問いに答えなさい

『京都の本能寺で家来 of 明智光秀に攻撃され  
自害した人物は誰ですか？』

長谷川悠の答え  
「織田信長」

作者のコメント  
まだ習ってないはずなのにすごいですね

小鳥遊美羽、杉原祥子の答え  
「習ってないので分かりません」

作者のコメント  
そうですね・・・

長谷川真の答え  
「ノブちゃん」

作者のコメント  
フレンドリーですね・・・

長谷川友、小鳥遊ひなの答え  
「なにそえゝ？」

作者のコメント  
読めませんよね・・・

小鳥遊空の答え  
「織田信長」

作者のコメント

さすが中学生！

真君は間違っていましたけどね・・・

瀬川祐太の答え

「豊臣秀吉」

作者のコメント

違います。

大学生が間違えるなんて・・・

作者の答え

「徳川家康」

みんなのつっこみ

あんたもまちがえてんじゃねーかよ！

## 暇つぶしにバカテスト（後書き）

おもしろかったですか？

ちなみに作者は頭がかなり悪いです・・・



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4859w/>

---

パパ聞き！～オリ主は小学生！？～

2011年11月25日19時00分発行